九七式輸送機完備	三	一號機上蓄電機搭載器具、手持消火器	ヲ附ス	三							
九七式戰鬪機完備	四	軍裝備ヲ除キ九七式二號機上發電機（乙）搭載器具	ヲ附ス	四							
豫備發動機（九七式六五〇馬力）	二			二							
豫備プロペラ（九七戰用分離式）	二			二							
一〇〇式輸送機完備	二	手持消火器 九七式一號機上發電機 一號機上蓄電池 偏流計（九四式二型）搭載器具	ヲ附ス	二							
豫備發動機（八一〇二）	二			二							
豫備プロペラ（一〇〇式輸用）	二			二							

備考

納入場所

（中央）中央航空機乘員養成所　千葉縣東葛飾郡高木村
（仙台）仙台地方航空機乘員養成所　宮城縣宮城郡七郷村
（米子）米子地方航空機乘員養成所　鳥取縣米子市兩三柳
（印旛）印旛地方航空機乘員養成所　千葉縣印旛郡船穗村字草深
（新潟）新潟地方航空機乘員養成所　新潟縣北蒲原郡松ヶ崎濱村
（熊本）熊本地方航空機乘員養成所　熊本縣菊池郡合志村

別紙　其二

昭和十六年陸軍委託調辨調書

（民間關係）

機種	九五式一型（乙型）練習機　完備
員數	一〇
委託箇所	大日本飛行協會
納入場所	立川飛行機株式會社工場渡シ

別紙　其三

昭和十六年度陸軍委託調辨飛行機入手希望時期調書

品名	委託員数	區分	入手希望月												納入場所
			五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月		
九五式三型練習機完備	四五	航空局				一五									印旛地方航空機乗員養成所
		〃								一五					新潟〃
		〃								一五					熊本〃
九五式一五〇馬力發動機完備	二四	〃				八									印旛〃
		〃								八					新潟〃
		〃								八					熊本〃
		〃													印旛〃
		〃								九					新潟〃
		〃													熊本〃
九五式三型用プロペラ豫備	三〇	〃								九					中央航空機乗員養成所
		〃				三									仙台地方航空機乗員養成所
		〃				六									米子〃
		〃				八									印旛〃
		〃				一五									印旛〃

九五式一型練習機完備	九五式三五〇馬力發動機（豫備）	九五式一型用プロペラ（豫備）
四五	二〇	三〇
〃	〃	〃
〃	〃	〃
〃	〃	〃
大日本飛行協會	航空局	〃
〃	〃	〃
〃	〃	〃
二	二	六
五	三	一〇
五	八	六
	五	六
	一	
	一	一
二		
二		
五		
新潟地方航空機乗員養成所	熊本〃〃	中央航空機乗員養成所
熊本〃〃	中央航空機乗員養成所	新潟〃〃
中央航空機乗員養成所	立川飛行機工場渡	印旛〃〃
立川飛行機工場渡	仙台地方航空機乗員養成所	米子〃〃
仙台地方航空機乗員養成所	米子〃〃	熊本〃〃
米子〃〃	印旛〃〃	新潟〃〃
印旛〃〃	新潟〃〃	仙台地方航空機乗員養成所
新潟〃〃	熊本〃〃	中央航空機乗員養成所
熊本〃〃	中央航空機乗員養成所	
中央航空機乗員養成所		

九九式高等練習機完備	九八式四五〇馬力發動機（豫備）	九九式高等練習機用プロペラ（豫備）	
三二	一二	一二	
〃	〃	〃	航空局
〃	〃	〃	
〃	〃	〃	
〃	〃	〃	
〃	〃	〃	
〃	〃	〃	
〃	〃	〃	
〃	〃	〃	
〃	〃	〃	
八	八	二	仙台地方航空機乗員養成所
八	八	二	米子〃
八	八	二	印旛〃
二	二	一	新潟〃
二	二	一	熊本〃
四	四	一	中央航空機乗員養成所
三	三	一	仙台地方航空機乗員養成所
三	三	一	米子〃
三	三	一	熊本〃
一	一	一	新潟〃
三	三	一	印旛〃
三	三	一	米子〃
三	三	一	仙台地方航空機乗員養成所
一	一	一	中央航空機乗員養成所
三	三	一	印旛〃
一	一	一	新潟〃

九七式輸送機完備									
九七式戰鬪機完備							三		
九七式戰鬪機用發動機（豫備）						四			
九七式戰鬪機用プロペラ（豫備）								一	一
一〇〇式輸送機完備									
〃 發動機（豫備）	二	二	二	二	二	四			
〃 プロペラ（豫備）	二	二	二	二	二				
熊本	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
中央航空機乘員養成所	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

陸軍省受領壹第二九二五號

陸軍

航空本部第二課内田中佐經由

空補第一一八號　昭和十六年六月二日

航空局長官

陸軍次官殿

航空器材（完備機關係）委託調辨ニ關スル件

首題ノ件昭和十六年度當局航空機乘員養成所竝ニ大日本飛行協會、朝日新聞社、東京日日新聞社、讀賣新聞社、同盟通信社ニ於ケル緊要器材トシテ左記ノ通調辨致度ニ付御繁忙中洵ニ乍恐縮時ニ御配慮相煩度及依頼候也

追而大日本航空株式會社所要器材ニ關シテハ別途調辨方委託可致ニ付御了承相成度

記

一、品目及員數　別紙其一ノ通（當局養成所關係）

二、入手希望期日　別紙其二ノ通（民間關係）

三、納入場所　別紙其三ノ通

1、養成所關係

中央航空機乘員養成所　千葉縣東葛飾郡高木村

仙台地方航空機乘員養成所　宮城縣宮城郡七郷村

米子　〃　〃　〃　鳥取縣米子市兩三柳

印旛　〃　〃　〃　千葉縣印旛郡船穗村

新潟　〃　〃　〃　新潟縣北蒲原郡松ケ崎濱村

熊本　〃　〃　〃　熊本縣菊池郡合志村

2、民間關係

大日本飛行協會　立川飛行機株式會社（工場渡）

東京小石川

陸軍

朝日新聞社　東京市蒲田區羽田江戸見町（羽田朝日格納庫）
讀賣新聞社　東京市世田ケ谷區大藏町多摩河原（玉川讀賣格納庫）
東京日日新聞社　東京市蒲田區羽田江戸見町（羽田日日格納庫）
同盟通信社　同右（日航羽田格納庫）

四、經費支辨

一、養成所關係　航空局拂

二、民間關係　當該關所拂

五、契約事項

一、本件契約ハ凡テ貴省契約様式ニ據ラレ度、

但シ代金支拂ハ物品完納後トセラレ度

二、本件經費ハ豫算ノ性質上年度内ニ物品完納竝ニ代金支拂ヲ完了スル如ク契約セラレ度

六、前諸項以外ニ於テ疑義ヲ生ジタル場合ハ航空局第二部補給課ニ連

別紙其一

昭和十六年度陸軍委託調辨（航空局奨成所關係）

機種	員數	記事	納入區分及員數										摘要
			中央	仙台	米子	印旛	新潟	熊本					
九五式三型練習機完備	四五												
豫備發動機（九五式一五〇馬力）	二四												
豫備プロペラ（九五式三型用被包式乙型）	三〇												
豫備發動機（九五式三五〇馬力）（乙型）練習機完備	三五												
豫備發動機（九五式三五〇馬力）	二〇												
豫備プロペラ（九五式一型用被包式乙型）	三〇												
九九式高等練習機完備	三三	九七式一號機上發電機一號機上蓄電機搭載器具三號機上發電機搭載器具ヲ附ス	一	一	四	六	二	二	三				
豫備發動機（九八式四五〇馬力）	一三		一三	一三	八	六	五	六					
豫備プロペラ（九九式高練用可變節）	一二		一三	一三	八	六	五	八					
九七式輸送機完備	三	九七式一號機上蓄電機搭載手持捎火器ヲ附ス	一	一	八	一〇	八	一五	九	八	一五		
九七式戰闘機完備	四	軍裝備ヲ除キ九七式二號機上發電機（乙）ヲ附ス	一	一	二	一	一	二	九	八	一五	一五	
豫備發動機（九七式六五〇馬力）	二		一	一	二	一	一	二	九	八	一五	一五	
豫備プロペラ（九七戰用分離式）	二		二	二	四	六	二	二	三				

九七式輸送機完備	三	一號機上蓄電機搭載器具、手持消火器	ヲ附ス	三						
九七式戰鬪機完備	四	軍裝備ヲ除キ九七式二號機上發電機（乙）搭載器具	ヲ附ス	四						
豫備發動機（九七式六五〇馬力）	二			二						
豫備プロペラ（九七戰用分離式）	二			二						
一〇〇式輸送機完備	二	手持消火器 九七式一號機上發電機 一號機上蓄電池 偏流計（九四式二型）搭載器具	ヲ附ス	二						
豫備發動機（八一〇二）	二			二						
豫備プロペラ（一〇〇式輸用）	二			二						

備考

納入場所

（中央）中央航空機乘員養成所　千葉縣東葛飾郡高木村

（仙台）仙台地方航空機乘員養成所　宮城縣宮城郡七郷村

（米子）米子地方航空機乘員養成所　鳥取縣米子市兩三柳

（印旛）印旛地方航空機乘員養成所　千葉縣印旛郡船穗村字草深

（新潟）新潟地方航空機乘員養成所　新潟縣北蒲原郡松ヶ崎濱村

（熊本）熊本地方航空機乘員養成所　熊本縣菊池郡合志村

別紙

其二

昭和十六年陸軍委託調辨調書

（民間關係）

機種	九五式一型（乙型）練習機　完備
員數	一〇
委託箇所	大日本飛行協會
納入場所	立川飛行機株式會社工場渡シ

別紙　其三　　昭和十六年度陸軍委託調辨飛行機入手希望時期調書

品名	委託員數	區分	入手希望月 五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	納入場所
九五式三型練習機完備	四五	航空局			一五									印旛地方航空機乘員養成所
		〃							一五					新潟〃
		〃							一五					熊本〃
		〃				八								印旛〃
		〃								八				新潟〃
		〃								八				熊本〃
九五式一五〇馬力發動機完備	二四	〃				九								印旛〃
		〃								九				新潟〃
		〃								九				熊本〃
九五式三型用プロペラ豫備	三〇	〃				三								中央航空機乘員養成所
		〃				六								仙台地方航空機乘員養成所
		〃				八								米子〃
		〃				一五								印旛〃

品名	數量												
九五式一型練習機完備	四五	〃						二					新潟地方航空機乘員養成所
		〃						二					熊本〃〃
		〃			二								中央航空機乘員養成所
九五式三五〇馬力發動機（豫備）	二〇	大日本飛行協會				五						五	立川飛行機工場渡
		航空局				三							仙台地方航空機乘員養成所
		〃				五							米子〃〃
		〃				八							印旛〃〃
		〃						一					新潟〃〃
		〃						一					熊本〃〃
		〃			二								中央航空機乘員養成所
九五式一型用プロペラ（豫備）	三〇	〃				六							仙台地方航空機乘員養成所
		〃				六							米子〃〃
		〃				一〇							印旛〃〃
		〃						一					新潟〃〃
		〃						一					熊本〃〃
		〃			六								中央航空機乘員養成所

航空局	九九式高等練習機完備	九八式四五〇馬力發動機（豫備）	九九式高等練習機用プロペラ（豫備）
仙台地方航空機乘員養成所	三二	一二	一二
米子〃	〃	〃	〃
印旛〃	〃	〃	〃
新潟〃	〃	〃	〃
熊本〃	〃	〃	〃
中央航空機乘員養成所	〃	〃	〃
仙台地方航空機乘員養成所	〃	〃	〃
米子〃	〃	〃	〃
印旛〃	〃	〃	〃
新潟〃	〃	〃	〃
熊本〃	〃	〃	〃
中央航空機乘員養成所	〃	〃	〃
仙台地方航空機乘員養成所	〃	〃	〃
米子〃	〃	〃	〃
印旛〃	〃	〃	〃
新潟〃	〃	〃	〃
仙台地方航空機乘員養成所	八	八	三
米子〃	二	二	一
印旛〃	二	二	一
新潟〃	八	八	三
熊本〃	四	四	一
中央航空機乘員養成所	二	二	一
仙台地方航空機乘員養成所	二	二	一
米子〃	二	二	一
印旛〃	二	二	一
新潟〃	二	二	一

九七式輸送機完備	三	〃	〃				三											中央航空機整備所	熊本
九七式戦闘機完備	四	〃	〃								四							〃	〃
九七式発動機（戦闘機用）（予備）	二	〃	〃								二	一						〃	〃
九七式戦闘機用プロペラ（予備）	二	〃	〃								二							〃	〃
一〇〇式輸送機完備	二	〃	〃								二							〃	〃
〃 発動機（予備）	二	〃	〃								二							〃	〃
〃 プロペラ（予備）	二	〃	〃								二							〃	〃

第六三號

保存期限 十年

決裁指定

決行指定

主務局課			大臣官房	
番號	受領	提出	受領	結了
航本發第五二八號	昭和 年 月 日	昭和 一七年 七月 一九日	昭和 年 七月 二十日	昭和 年 七月 廿三日

連帶	決行(決裁)後回覽
局長	局長
課長	課長

大臣 委

政務次官 委

本部長

總務部長

主務部長

主務課長

庶務課長

副官

主務部員

高級副官

主務副官 官房御用係 主計

參與官

書記官

審案筆記者

政務次官 參與官 回附 決裁 前後

連帶課名

決行(決裁)後回覽課名

受領番號 壹第三五四二號ト

件名 操縱訓練機等委託調辦ニ関スル件ト

起元廳(課)名 航空局

拾年保

陸軍

陸普

副官ヨリ航空局長官ヘ通牒

七月七日附空補第三一四號ニ係ル首題ノ件ハ陸軍航空本部長ヲシテ調辨方取計ラハシメラルルニ付承知相成度

陸普第五五二一八號　昭和拾六年七月廿壹日

陸普

副官ヨリ陸軍航空本部長ヘ通牒

首題ノ件ニ関シ別紙ノ通航空局長官ヨリ願出アリタルニ付調辨方取計ラハレ度依命通牒ス

陸普第五五二一八號　昭和拾六年七月廿壹日

有添付

陸軍航空本部 内田中佐經由

空補第三一四號

昭和十六年七月七日

陸軍省受領 壹第三五四二

航空局長官

陸軍次官殿

陸軍省 昭和 16.7.8 午前 大臣官房

航空局 16.7.-9 受付

大日本帝國政府

操縱訓練機等委託調辨ニ關スル件

首題ノ件當局地方航空機乘員養成所ニ於ケル操縱生教育用竝ニ航空計測器試驗用トシテ緊要ニ付左記ノ通調辨方委託致度ニ付御繁忙中乍恐縮特ニ御配慮ヲ得度此段及依賴候也

記

一、品名竝ニ數量　別紙ノ通

二、契約事項

ノ、本件契約ハ凡テ貴省契約樣式ニ據ラレ度

但シ代金支拂ハ物品完納後トセラレ度

当課トシテハ異存ナシ

處置相成度

第七課御中

貴課ニ於テ

航本第二課

陸軍航空本部 16.7.10 第七課受付

三、本件經費ハ豫算ノ性質上年度内ニ物品完納竝ニ代金支拂ヲ完了シ得ル如ク契約セラタ度

尚契約者代理人タルトキハ必ス委任狀添付相成度

昭和十六年度操縦訓練機並計測器試驗器類委託調辦調書　航空局

品名	數量	所要期	納入場所及數量 仙台	米子	印旛	熊本	新潟
操縦訓練機(完備)	一〇	昭和一七年二月	二	二	二	二	二
野外用高度計試驗器	三		一	一	一		
野外用速度計試驗器	三		一	一	一		
野外用同轉計試驗器	三		一	一	一		
野外用發電機及點火栓試驗器	一		〇	〇	一		
野外用燃料壓力計試驗器	三	可成速ニ	一	一	一		
野外用溫度計試驗器	三		一	一	一		
野外用油量計試驗器	三		一	一	一		
氣化器試驗器	三		一	一	一		
プロペラ釣合試驗器	三		一	一	一		

摘要

納入場所々在地

●仙台地方航空機乗員養成所　宮城縣仙台市六郷村

●米子地方航空機乗員養成所　鳥取縣米子市雨三柳

●印旛地方航空機乗員養成所　千葉縣印旛郡船穂村草深

●熊本地方航空機乗員養成所　熊本縣菊池郡合志村

●新潟地方航空機乗員養成所　新潟縣北蒲原郡松ケ崎村

備考

單位ハ個又ハ組トシ注文品ト同等ナルコト

寫

陸軍航空本部內田中佐經由

陸軍省壹第三五四二號
受領
空補第三一四號

昭和十六年七月七日

陸軍次官殿

航空局長官

官房控

陸軍

操縱訓練機等委託調辨ニ關スル件

首題ノ件當局地方航空機乘員養成所ニ於ケル操縱生教育用竝ニ航空計測器試驗用トシテ緊要ニ付左記ノ通調辨方委託致度ニ付御繁忙中乍恐縮特ニ御配慮ヲ得度此段及依賴候也

記

一、品名竝ニ數量

別紙ノ通

二、契約事項

一、本件契約ハ凡テ貴省契約様式ニ據ラレ度
但シ代金支拂ハ物品完納後トセラレ度
三、本件經費ハ豫算ノ性質上年度内ニ物品完納竝ニ代金支拂ヲ完了
シ得ルガ如ク契約セラレ度
尚契約者代理人タルトキハ必ス委任狀添付相成度

陸軍大臣 殿

昭和十六年七月十七日

航空局長官

空補第三一四號
受領 陸軍省 第三五四二號

陸軍航空本部内田中佐經由

陸軍省

昭和十六年度操縦訓練機並計測器試験器類委託調辨調査　航空局

品名	数量	所要期	納入場所及数量 仙台	米子	印旛	熊本	新潟	摘要
操縦訓練機(完備)	一〇	昭和一七年二月	二	二	二	二	二	納入場所々在地
野外用高度計試験器	三		一	一	一			●仙台地方航空機乗員養成所宮城縣仙台市大郷村
野外用速度計試験器	三		一	一	一			○米子地方航空機乗員養成所鳥取縣米子市両三柳
野外用回轉計試験器	三		一	一	一			○印旛地方航空機乗員養成所千葉印旛郡船橋村草深
野外用發電機及點火栓試験器	一	可成速ニ	〇	〇	一			●熊本地方航空機乗員養成所熊本縣菊池郡合志村
野外用燃料壓力計試験器	三		一	一	一			●新潟地方航空機乗員養成所新潟縣北蒲郡松ケ崎濱村字古水戸
野外用温度計試験器	三		一	一	一			
野外用油量計試験器	三		一	一	一			
氣化器試験器	三		一	一	一			
プロペラ釣合試験器	三		一	一	一			

備考　單位ハ個又ハ組トシ軍注文品ト同等ナルコト

東京 小澤柄

保存期限	三年	決裁指定	局長委任	決行指定

第六四號

大臣官房		主務局課			大臣委		政務次官	參與官	書記官	審案筆記者
結了	受領	提出	受領	番號						
昭和 年 七月 十三日	昭和 年 七月 十一日	昭和 十六年 七月 十九日	昭和 十六年 七月 十一日	防衛甲第三七二號						
決行(決裁)後回覽		連帶			主務局長	次官委	高級副官	主務課長	主務副官	主務課員
局長		局長								
課長		課長								

件名	受領番號	政務次官	參與官	書記官	審案筆記者
軍用資源秘密保護法ノ測量ニ關スル件	壹第三五八三號				

政務次官	參與官	決行(決裁)後回覽課名
回付	決裁前後	交通、
連帶課名	起元廳(課)名	鐵道省

陸軍

陸密　大臣ヨリ鐵道大臣ヘ回答

七月十日附鐵軍秘第一九四號ヲ以テ協議ニ係ル首題ノ件許可期間ヲ昭和十六年八月一日以降ニ於テ適宜決定セラルルニ於テハ貴條件ニテ許可相成差支無之此段及回答候

陸密第二一七〇號　昭和拾六年七月廿壹日

陸

陸軍省受領 壹筵 三五八三號

鐵軍秘第一九四號

昭和十六年七月十日

鐵道大臣 小川鄉太郎

陸軍大臣 東條英機殿

海軍大臣 及川古志郎殿

（連名各通）

軍用資源秘密保護法ノ測量ニ關シ川崎市長ヨリ別紙願出有之候處左記條件ヲ附スルニ於テハ支障無キモノト被認候條許可ノコトト致度此段及協議候

記

許可條件

一、成果物ハ東京鐵道局長ノ檢閲ヲ受ケ其ノ取扱方ニ遺憾ナキヲ

陸軍省 昭和 16.7.10 午後 大臣官房

陸軍省 16.7.11 651 防衛課

十六川都發第一二八號

測量許可願

本籍　福島縣岩瀬郡那須賀川町大字須賀川字東六丁目四一番地

現住所　川崎市上丸子一四一五番地

職業　川崎市長

村井八郎

五十六才

昭和十六年六月二十三日

鐵道大臣小川（鄉太郎殿）

左記ノ通測量致度ニ付許可相成度候

左記

一、目的

川崎都市計畫街路（一等三類二號線）專
三、工場、事業場其ノ他ノ設備ノ所在地及名稱
事業路線測量ノ爲
横濱市鶴見區
新鶴見操車場構內

三、區域

圖面指示區域

四、日時（期間）

自昭和十六年七月五日
至昭和十六年七月二十五日

五、方法

平面測量

六、使用器具類ノ名稱

神奈川縣川崎市役所

レベル及トランシット竝平板

七、作業者ノ住所、氏名及年齢

川崎市幸町二丁目六九三	田代信作	三十四才
東京市麹町區富士見町一丁目一四六	高橋寅清	二十七才
東京市大森區入新井六丁目一二〇	吉田三郎	四十二才
川崎市新川通六	柴田榮太郎	三十才
東京市大森區入新井四丁目一三一	小林三四吉	二十八才
川崎市南幸町三丁目一三五六	高木秀勇	十六才
川崎市大島町二丁目四〇ノ二	谷口三夫	十九才

八、作業ノ場所

川崎市砂子一丁目

市役所都市計畫課

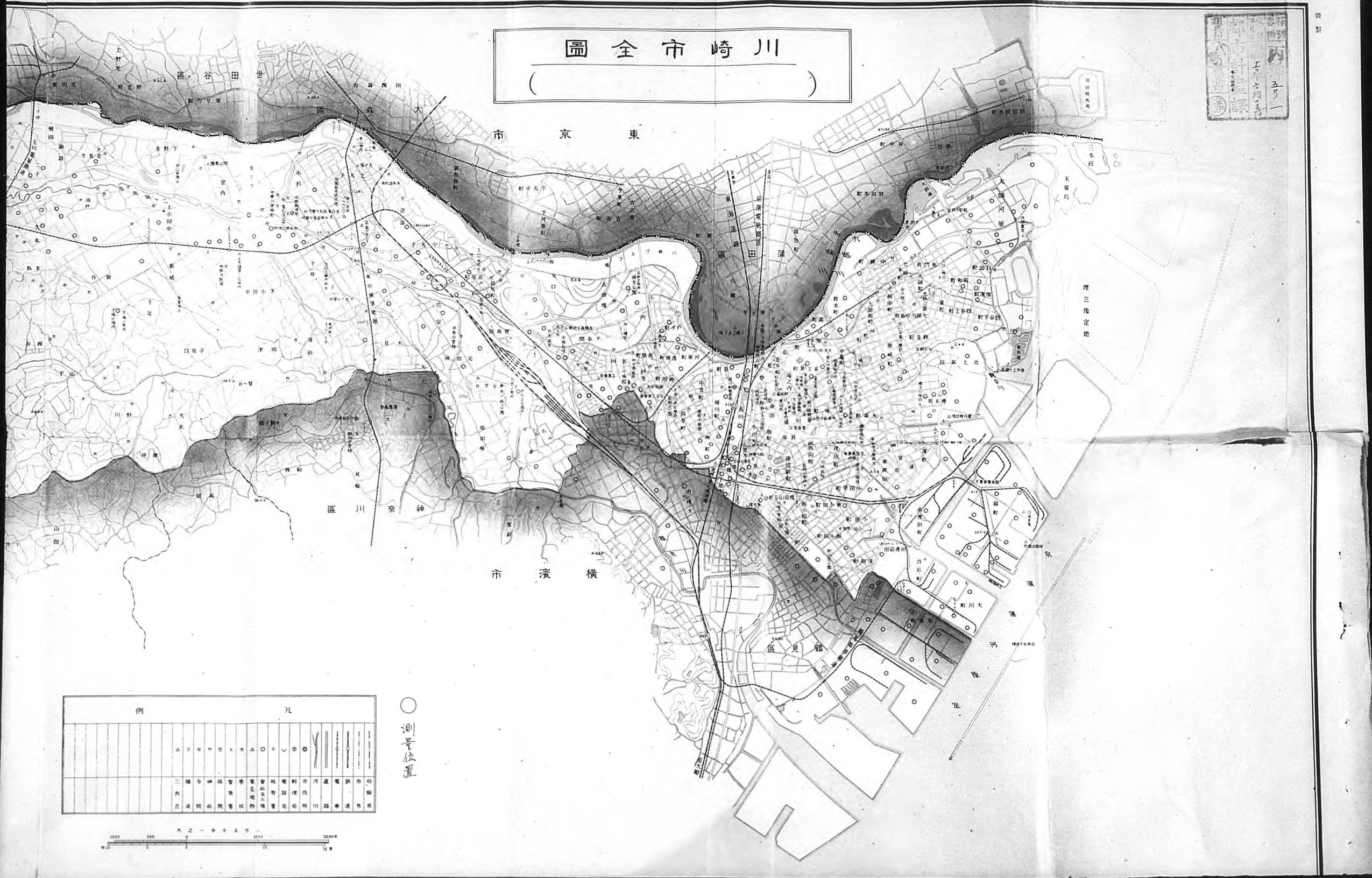
九、成果物ノ員數及其ノ用途

十、其約二十枚ノ工事施行ノ爲ニ使用

十、其ノ他參考トナルベキ事項

ナシ

谷口三夫	十九才	
高木秀勇	十六才	
小林三四吉	二十八才	
柴田奈太郎	三十才	
吉田三郎	四十二才	
平塚實治	二十七才	
田代曾治	[illegible]	

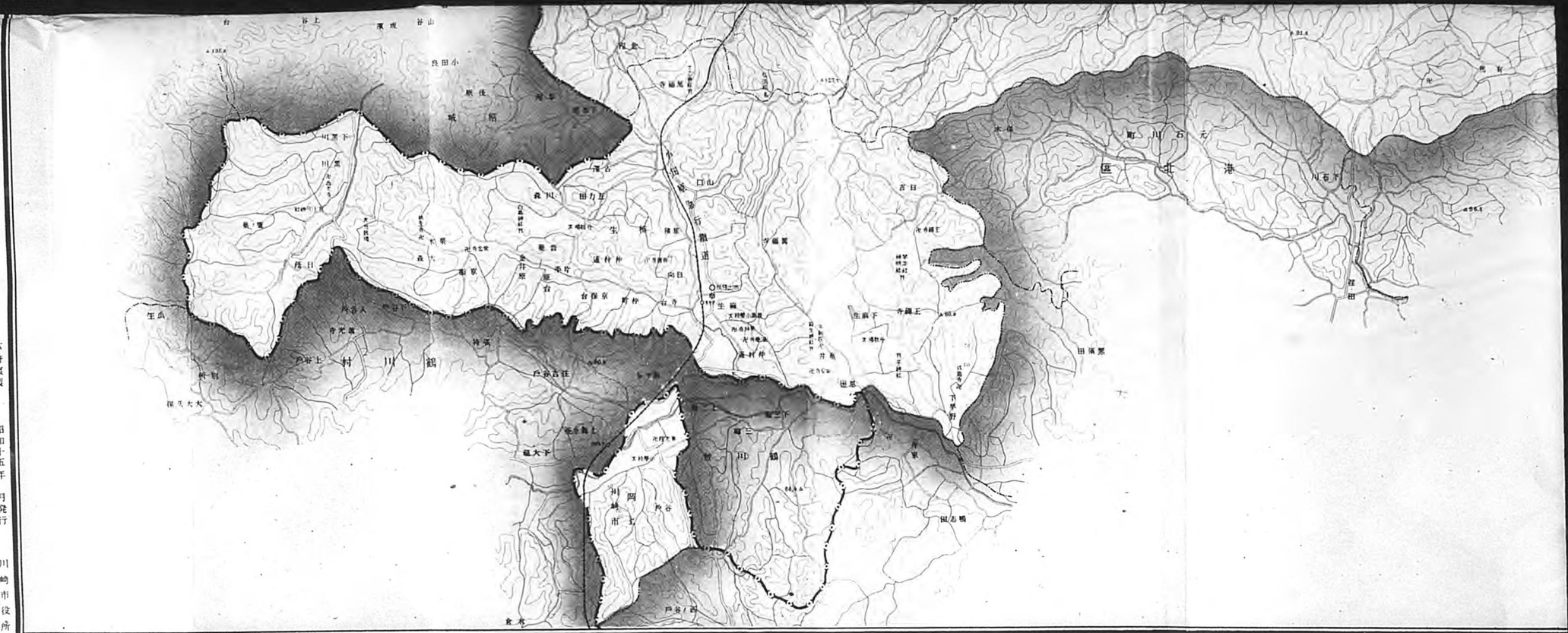

川崎市全圖
東京市
横濱市
神奈川區
鶴見區
埋立豫定地
凡例
測量位置

五九二

一般圖

不許複製

昭和十五年　月発行　川崎市役所

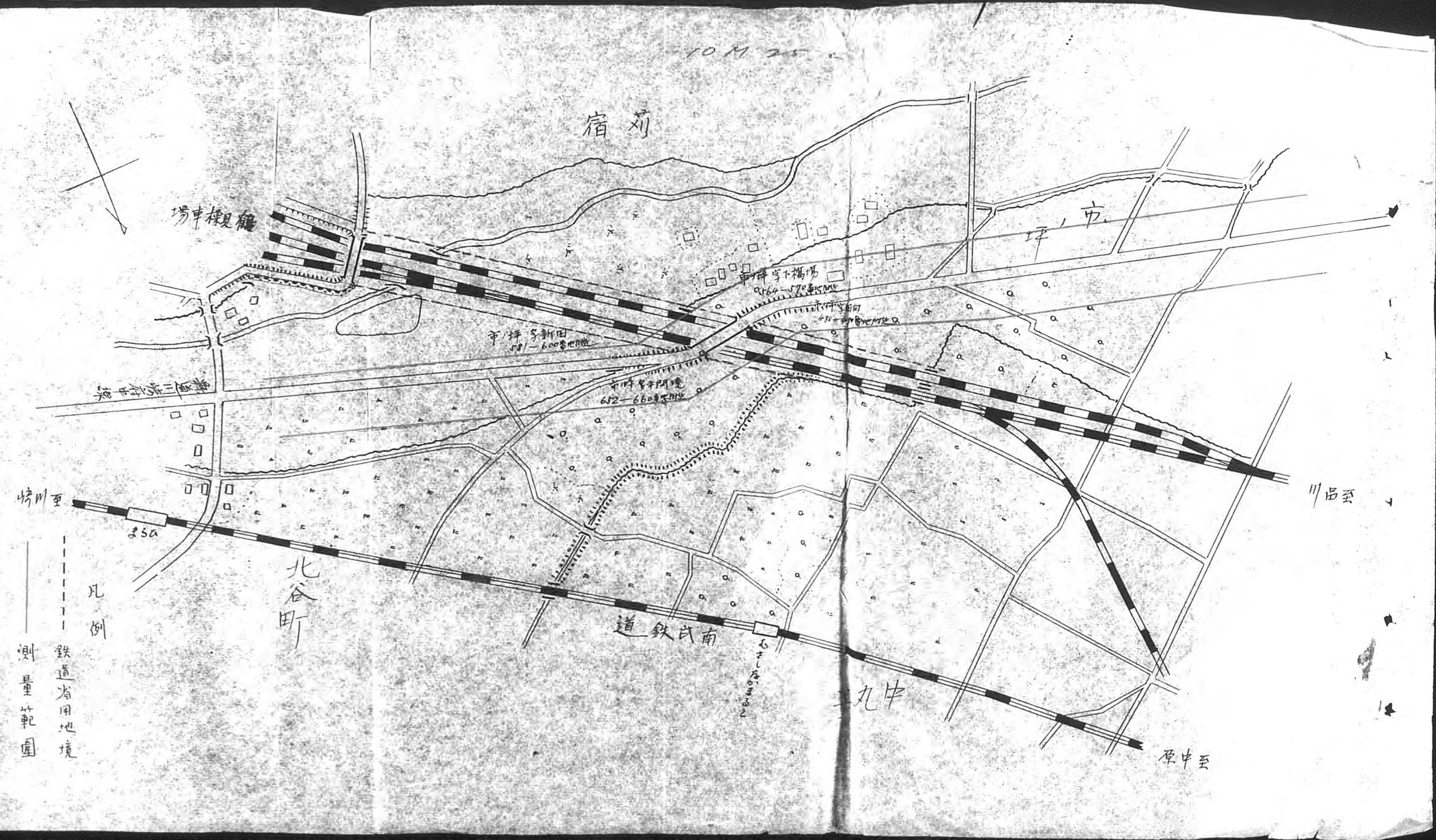


不許複製

昭和十五年　月発行

川崎市役所

中央地図協会推薦図



10M 25
宿刈
場車様見鶴
市ノ坪
市ノ坪字下橋場
564—570番地附近
市ノ坪字新田
581—600番地附近
市ノ坪字平間境
652—660番地附近
川品至
至川崎
北谷町
南武鉄道
中丸
至中原
凡例
鉄道省用地境
測量範圍

第六五號

七月廿四日

大日本帝國政府

拓亞一第三八七九號

昭和十五年十月五日

拓務次官　田中武雄

陸軍次官　阿南惟幾殿

第二次集合開拓團指導員募集ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ今般別紙寫ノ通各地方長官宛依命通牒致置キタルニ付

右御了知ノ上何分ノ御協力相煩度

陸軍省 15.10.5 軍務課

拓亞一發三八七九號

昭和十五年十月五日

拓務次官　田中武雄

別紙添附

第二次集合開拓團指導員募集ニ關スル件

昭和十六年度實施ニ係ル第二次集合開拓團指導員ハ集團開拓團指導員同樣開拓農民トハ別途募集スルコトニ改メ且編成當該府縣ニ於テ假採用ノ上推擧スルコトトシ之ガ訓練期間モ内地現地ヲ通ジ十分ナル訓練ヲ實施シ得ル如ク別紙募集要綱ニ依リ之ガ募集ヲ致スコト相成リタ

ルニ付右ノ趣旨御了知ノ上集合開拓團建設上指導員ノ地位ノ重要性ニ鑑ミ適當ナル候補者ヲ推擧相成度依命此段通牒ス

第二次集合開拓圖指導員募集要綱

集合開拓圖ノ指導員トシテ開拓地農村ノ建設ニ從事シ以テ滿洲建國ノ聖業ニ挺身セントスル者ヲ左記ニ依リ募集ス

記

一、指導員ノ種類

イ、圖長

ロ、保健指導員（醫師）別途募集ス

二、募集人員

イ、集合開拓圖ハ概ネ五十戸ヲ以テ一集團ヲ編成シ一集圖ニ付圖長一名ヲ附スルモノトス

ロ、關係當該府縣

ハ、締切期日　昭和十五年十月末日

ニ、手續　募集者ハ左ノ書類ヲ現住地地方長官宛提出スルモノトス

(イ)集合開拓農民計畫概要書（別紙樣式一）　二通

2. 機

3. 締切期日

4. 手續

三、應募資格

1. 經歷

(イ) 中等學校以上ノ卒業者又ハ之ト同等以上ノ學力アリト認メタル者

(ロ) 開拓團ノ中核的人物トシテ開拓地建設ヲ指導シ得ルモノ

(ハ) 原則トシテ計畫樹立町村又ハ團體ニ於ケル指導的人物トス

2. 年齡 徵兵檢查終了後ノ者

3. 健康狀態 身體强壯ニシテ開拓團ノ建設ニ從事シ得ル者

4. 其他 妻帶者ハ當分別居生活ヲ爲シ得ル者

四、經費 (イ) 本人自筆ノ履歷書

(ロ) 戶籍抄本（在籍者全部ヲ記載セルモノ）

(ハ) 家族調書（別紙樣式二）

(ニ) 最近撮影ノ手札型寫眞

三通

二通

二通

二葉

1. 銓衡　道府縣ニ於テ人物考査竝ニ身體檢査ヲ行ヒタル上編成計畫ヲ檢討シ之トノ關聯ニ於テ適格者ト認メタル者ヲ指導員候補者トシテ假採用シ拓務省ニ推薦スルモノトス

2. 訓練　指導員候補者ニ採用セラレタル者ニ對シテハ茨城縣東茨城郡鯉淵村滿蒙開拓幹部訓練所ニ於テ約二ヶ月ノ內地訓練ヲ實施シ渡滿ノ上滿洲國哈爾濱市開拓指導員訓練所ニ於テ約二ヶ月ノ現地訓練ヲ實施ス

3. 手當　指導員候補者ノ內地訓練所入所旅費ノ實費及現地訓練所入所ノ爲ノ渡滿旅費竝ニ支度料トシテ一人當二百三十圓ヲ支給ス

指導員候補者トシテ內地及現地訓練所ニ入所中ハ概ネ月五十圓乃至九十圓ノ手當ヲ支給ス

六、待遇其ノ他

1. 身分　所定ノ訓練終了後集合開拓地ニ入植シタル時ヨリ日滿兩國政府ニ於テ開拓團指導員ニ任用ス

2. 俸給　日滿兩國政府ヨリ概ネ月百圓乃至二百圓ノ手當ヲ支給ス

3. 宿舍　宿舍ハ建築ヲ俟ツテ無料貸與ス

道府縣廳

（様式 一）

集合開拓農民計畫概要書

一、計畫町村名及送出戶數

縣名	郡名	町村名	送出戶數	備考
			戶	

一、中心人物氏名

住所	氏名	年齡	職業	備考

一、送出時期

區分	昭和十六年度	昭和十七年度	昭和十八年度	計	備考
家族					
團員					
四月一日～九月三十日					
十月一日～三月三十一日					

一、町村農業概況

町村名	總戸數	農家戸數	耕地面積	農家一戸當平均耕地面積	現金收入	現金支出	負債	適正規模經營面積	送出可能戸數

一、送出促進強化施設

(イ)耕地處分方法

(ロ)負債整理方法

(ハ)家族援護方法

(ニ)其ノ他

一、其ノ他必要ナル事項

記載上ノ注意

(1) 計畫町村名ハ計畫範圍町村全部ヲ擧ゲ分郷及特殊團體モ之ニ準ズルコト

(2) 送出戸數ハ昭和十六年度（第二次）計畫五十戸以上實施ノモノニシテ同十七年度以降繼續送出ヲ計ル戸數ハ備考欄ニ年次別記入スルコト

(3) 中心人物ハ計畫後母村ニ於テ事業遂行ニ當ル者ナルコト

(4) 送出促進ノ強化施設ハ簡單ニ計畫概要ヲ記入スルコト

（様式　二）

家族調査

本籍

現住所

戸主何某何男氏

生年月日　名

扶養の義務ある家族

本人との續柄	戸主との續柄	氏名	生年月日

其の他の家族

本人との續柄	戸主との續柄	氏名	生年月日

右之通相違無之候也

昭和　年　月　日

右　氏　名

第六六號

極秘

中村

三七一〇

陸軍省 昭和 16.7.17 前午 大臣官房

別紙添附

米二極秘合第二七五三號

昭和十六年七月十五日

外務次官

陸軍次官殿

南米歐洲間交通聯絡狀態ニ關スル件

本件ニ關シ今般在伯石射大使ヨリ別添寫ノ通リ電報越セルニ付御參考迄右茲許送付ス

本信送付先　陸軍省、海軍省、遞信省

外務省

外務次官

陸軍省 16.7.17 1126 軍務課

（日本標準規格B5）

極秘

寫

南ヘ

松岡外務大臣宛在伯石射大使來電（七月十日着）寫

南米歐洲間交通聯絡狀態査報方ニ關シ

伯國郵政廳ハ歐洲向普通郵便物ハ之ヲ引受クルモ當國ノ「ロイド
ブラジレイロ」會社船ノミニテ遞送ス但シ英國向ケノモノハ米國經由ニヨルモノモ
經由トシ其他英國向ケ航空便ハ「ラチエ」ノ外米國經由ニヨルモノモ
アリ

歐洲行各會社船舶ハ總テ當地英國官憲ヨリ前以テ「シップス、ナビサート」ヲ取得シテ出帆シ居ルカ右「ナビサート」要求ニ當リ
テハ乘客ノ身分、國籍其ノ他詳細ヲ通告スルヲ要シ乘客ハ事實上
英國側ノ「コントロール」ニ服シ居ル次第ナルカ本件ニ關シ英領
事館ニ照會セル處日本人ニハ何等故障ナキ旨回答セリ

外務省

（日本標準規格B5）

七月廿四日

第六七號

極秘

備課

中村

米二極祕合第二七八五號

昭和十六年七月十七日

陸軍次官殿

輸出禁止法案ニ關スル川崎代理公使ト智利外相トノ會談ニ關スル件

本件ニ關シ今般在智利川崎代理公使ヨリ別添寫ノ通リ電報越セルニ付御參考迄右茲ニ送付ス

本信送付先　陸軍省、海軍省

外務次官

別紙添附

外務省

(日本標準規格B5)

拾年保

受領 壹第三七四二號

軍省 昭和16 7.18 午後 官匠

陸軍省 16.7.19 1134 軍務課

陸軍省 16.7.21 備課

昭和十六年七月十二日着

松岡外務大臣宛在智利川崎代理公使來電寫

外相ニ十日會見シ輸出法案ノ下院ニ於ケル説明ニ付安心ナラサル點アリ智利産品ノ對日輸出制限ト言フカ如キコトアリテハ我方折角ノ通商増進ノ努力モ水泡ニ歸スヘク實ハ本邦ハ既ニ當方面ニ對スル船舶増配手當ヲ爲セルヲ以テ智利今後ノ政策ニ依リテハ之カ計畫ニモ影響スヘキ故腹藏無キ意見ヲ承ハリタシト述ヘタルニ對相ハ自分トシテハ飽迄中立方針ヲ堅持シ何國ニモ壓迫セラレサル處外通商ノ自由ヲ維持シタキ考ハ現在モ何等變ナキモ智利ノ利益ヲ第一義トスルヲ以テ例ヘハ日本或ハ米國ト特殊ノ取極ヲ爲スカ如クコトモアルヘシ就テハ此ノ際別電ノ趣旨ニ依リ本邦側ヨリ書面ヲ以テ申出アリ度ク最モ有利ナル條件ヲ選フコトモ差支ナキモ極祕裡ニ右ヲ閣議ニ諮リ場合ニ依リテハ祕密取極トナシテモ差支

日本標準規格B5

無シト思考スト言ヘルニ付本官ヨリ我方提案カ徒ラニ智利側ノ對
米交渉ノ道具ニ使ハルル惧レ無キヤト念ヲ押シタル處左樣ノ懸念
ハ無シト答ヘタリ
以上會談ニ依リ得タル印象ニ依レハ米國側ノ第一目標ハ對日通商
妨害ニ在リト思考セラルルヲ以テ我方ヲ凌駕スル好條件ヲ出ス
ク智利トシテハ恐ラク我方提案ヲ利用スル程度ニ過キサルヘシト
思ハルルモ本件ハ今後ノ智利ノ動向ニ重大ナル關係モアリ他方對
米牽制ノ機會トナルヘキニ付右大至急御研究ノ上回答振御回電相
成度シ

（日本標準規格B5）

極秘

陸軍省受領 壹第三七四九號

陸軍省 昭和16.7.18 午後 官房

陸軍省 16.7.19 軍務課

別紙添附

米二極祕合第二七八四號

昭和十六年七月十七日

外務次官

陸軍次官殿

智利輸出禁止法案ニ對スル我方條約ニ關スル件（別電）

本件ニ關シ今般在智利川崎代理公使ヨリ別添寫ノ通リ電報越セルニ付御參考迄右茲ニ送付ス

本信送付先　陸軍省、海軍省

外務省

（日本標準規格B5）

寫

昭和十六年七月十二日前着

松岡外務大臣宛

在智利川崎代理公使來電寫

一、智利ニ對スル帝國ノ通商增進及友好關係維持ノ希望ヲ更メテ承認

二、（Ratification）セラレ度キコト（本件トハ別ニ當方面ニ於テ

國側ノ宣傳ニ依リ一部ニハ誤解アルヲ以テ適當機會ニ外務省ヨリ

帝國カ中南米諸國ニ對シ貿易增進以外何等ノ意圖無キコトヲ發表

三、セラルルコトハ好マシキコトナリト附言セリ）

四、硝石ヲモ含メタル購入希望ノ智利產品ノ種類及ヒ量ノ最大可能量

ヲ記載セラレ度シ

右ニ對スル支拂方法トシテハソノ評價ハ容易ナラサルヘキモ紐育

相場ヨリモ有利ナル條件ニテ漠然ト表ハサレ又全部ヲ本邦品ノ輸

出ニ期待スルコトハ困難ナルヘキニ付一部代金ノ現送ヲ希望ス

右船舶數輸送方法及總噸數

尙直航船ニ依ル場合復航燃料補給ノ可能性ニ付尋ネタルニ研究シ

（日本標準規格B5）

置クヘシト述ヘタリ

追テ精銅ニ關シテハ殘念乍ラ米國側ノ承諾ヲ得サリシ趣ヲ述ヘタリ

（了）

外務省

第六八號

保存期限	三年	決裁指定	局長	決行指定	川原

收務次官 參與官 回付	決裁 前後 連帶課名	決行(決裁)後 回覽課名
受領番號	壹第三六七九號	起元廳(課)名 司法省
件名	軍用資源秘密ニ係ル工場財團登記簿ノ閲覽ニ關スル件	

陸軍

大臣	委
政務次官	
參與官	
書記官	
審案筆記者	
次官	委
高級副官	川原
主務副官 官房御用掛主計	川原
主務課員	川原
主務局長	付
主務課長	清部
主務課員	清部

主務局課				大臣官房	
番號	受領	提出	受領	結了	
防衛甲第三八三號	昭和十六年七月十六日	昭和十六年七月二十二日	昭和 年 七月廿二日	昭和 年 七月廿五日	

連帶	決行(決裁)後回覽
局長	局長
課長	課長

拾年保

（陸密）

大臣ヨリ司法大臣ヘ回答

七月十四日附司法民事局諸秘第六八號ヲ以テ協議ニ係ル首題ノ件許可相成差支無之此段及回答候

陸密第二二〇四號　昭和拾六年七月廿參日

軍資秘

大日本帝國政府

司法省秘第六八號
昭和十六年七月十四日

司法大臣　柳川平助

陸軍大臣　東條英機　殿

軍用資源秘密ニ係ル工場財團登記簿閲覧許可申請ニ關スル件

株式會社住友銀行ヨリ別紙ノ通軍用資源秘密ニ係ル工場財團登記簿閲覧（工場財團目錄ヲ除ク）許可申請有之右ニ對シ許可致度軍用資源秘密保護法施行令第十三條第二項ニ依リ及協議候也

陸軍省 16.7.15 大臣官房
陸軍省 16.7.16 防衛課
358

大日本帝國政府

寫

昭和十六年七月四日

大阪區裁判所江戸堀出張所

裁判所書記　北田英太郎

司法大臣　柳川平助殿

軍用資源祕密トシテ指定セラレタル工場財團
登記閲覧許可申請ニ關スル件

軍用資源祕密トシテ指定セラレタル當廳管内左記會社ノ工場財團ニ關シ同財團ノ抵當權者タル株式會社住友銀行ヨリ閲覧許可申請書提出有之候ニ付調査候處同申請書記載ノ如ク抵當權設定登記並ニ抵當權擔保附社債登記事項等ヲ記載セル右登記簿ヲ閲覧シ先順位ノ抵當權者ノ有無並ニ前記抵當權カ正當ニ登記爲サレ居ルヤヲ閲覧スルノ必要上本申請ヲ爲シタルモノニシテ理由アルモノト思料致候條司法省令第二十六

大日本帝國政府

號第四條ニ依リ別紙許可申請書進達旁及具申候也

記

一、會社名　住友金屬工業株式會社

一、所在地　大阪市此花區島屋町三十七番地

一、工場財團登記簿閱覽許可申請書

一、申請人　大阪市東區北濱五丁目貳拾貳番地

株式會社住友銀行

一、申請ノ目的　末尾記載大阪區裁判所江戸堀出張所登記第八拾號工場財團登記簿（但工場財團目錄ヲ除ク）閱覽ノ許可

一、申請ノ事由

前記工場財團ハ住友金屬工業株式會社ヲ委託會社トシ株式會社住友銀行及住友信託株式會社ヲ共同受託會社トシテ數回ニ分チ發行スベキ住友金屬工業株式會社第壹回物上擔保附社債總額六千五百萬圓ノ擔保トシテ昭和拾六年參月五日抵當權設定ノ登記ヲ相受ケ、昭和拾六年參月貳拾五日其ノ第壹回發行分ハ號社債貳千萬圓、同年五月貳拾九日其ノ第貳回發行分ハ號社債貳千萬圓ニ付夫々附記登記ヲ相受ケタルヲ以テハ右社債ノ受託會社（抵當權者）タル當行ニ於テ右工場財團ニ付先

大日本帝國政府

右軍用資源秘密保護法施行令第拾參條ノ適用ニ關スル件第貳條ニ依ル順位ノ抵當權者ノ有無並ニ前記抵當權ガ正當ニ登記致サレ居ルヤノ必要アルニヨル

昭和拾六年七月參日

大阪市東區北濱五丁目貳拾貳番地
株式會社住友銀行
代表取締役　岡橋林

司法大臣　柳川平助殿

ル御許可相願度此段及申請候也

大日本帝國政府

一、工場財團ノ表示

一、工場ノ名稱及位置

大阪市此花區島屋町五拾六番地ノ壹
住友金屬工業株式會社伸銅所工場
大阪市此花區島屋町貳百四拾九番地
住友金屬工業株式會社製鋼所工場
大阪市此花區島屋町五拾六番地ノ壹
住友金屬工業株式會社プロペラ製造所工場
大阪市此花區島屋町參拾七番地

一、主タル營業所

大阪市此花區島屋町參拾七番地

一、營業ノ種類

壹、銅亞鉛アルミニウム等非鐵金屬及其合金ノ鑄塊板管棒條鍛壓品鑄物航空機用プロペラ等ノ製造販賣並ニ之ニ關聯スル一切ノ業務

貳、鑄鋼品鑄鐵品鍛鋼品壓延鋼品鋼塊鋼片諸機械器具ノ製造販賣並ニ之ニ關聯スル一切ノ業務

參、鋼管瓦斯管氣蓄器壓縮空氣及瓦斯容器棒鋼形鋼特殊鋼板等ノ製造販賣並ニ之ニ關聯スル一切ノ業務

四、前參號ノ製品ニ關スル各種加工品及附屬品ノ製造販賣並ニ之ニ關聯スル一切ノ業務

五、前各號ト同種類又ハ之ニ關聯スル事業ニ對スル投資

機密文書配付票（甲）

標記	件名	文書番號	一連番號及部數	備考
軍資秘	軍用資源秘密ニ係ル工場財団登記簿閲覧許可申請ニ関スル件（住友銀行申請）	民事局秘六八號	自　號 至　號　部	

右貴廳宛配付致候條御査收ノ上領收證御送付有之度候

昭和十六年×月十四日

司法大臣官房祕書課長

陸軍省副官殿

第六九號

保存期限	三年	決裁指定	局長	決行指定	

政務次官參與官	回付	決裁前後	連帶課名	決行(決裁)後回覽課名
受領番號	壹第三六八口號	起元廳(課)名	司法省	
件名	軍用資源秘密ニ係ル工場賊團登記簿謄本交付ニ關スル件			

大臣	委

主務局課			大臣官房	
番號	受領	提出	受領	結了
防衛甲第三八四號	昭和十六年七月十六日	昭和十六年七月二十二日	昭和 年 七月 廿二日	昭和 年 七月 廿五日

政務次官	次官	主務局長
委	委	代

參與官	高級副官	主務課長

書記官	主務副官 官房御用掛主計	主務課員

審案筆記者	連帶	決行(決裁)後回覽
	局長	局長
	課長	課長

拾年保

陸軍

（陸密）

七月十四日附司法事務局秘第六七號ヲ以テ協議ニ係ル首題ノ件許可相成差支無之此段及協答候

大臣ヨリ司法大臣ヘ回答

陸密第二二一〇八號

昭和拾六年七月廿參日

軍資秘

大日本帝國政府

司法省民事局 祕第六七號

昭和十六年七月十四日

司法大臣 柳川平助

陸軍大臣 東條英機殿

軍用資源祕密ニ係ル工場財團登記簿

謄本交付許可申請ニ關スル件

株式會社住友銀行ヨリ別紙ノ通軍用資源祕密ニ係ル工場財團登記簿謄本（工場財團目錄ノ謄寫ヲ除ク）壹通交付許可申請有之右ニ對シ許可致度軍用資源祕密保護法施行令第十三條第二項ニ依リ及協議候也

陸軍省 昭和 16.7.15 午前 大臣官房

陸軍省 16.7.16 防衛課

司法大臣

大日本帝國政府

寫

昭和十六年七月四日

大阪區裁判所江戸堀出張所

裁判所書記　北田英太郎

司法大臣　柳川平助殿

軍用資源祕密トシテ指定セラレタル工場財團登記簿謄本交附申請ニ關スル件

軍用資源祕密トシテ指定セラレタル工場財團ニ關シ同財團ノ抵當權者タル株式會社住友銀行ヨリ其ノ登記簿謄本交附申請書提出有之候ニ付調査候處同申請書記載ノ如ク抵當權設定登記並ニ抵當權擔保附社債信託登記事項等ヲ記載セル右登記簿謄本ヲ同工場財團登記簿謄本ヲ備置ク必要上本申請ヲ爲シタルモノニシテ

大日本帝國政府

由アルモノト思料致候條司法省令第二十六號第四條ニ依リ別紙許可申請書進達旁及具申候也

記

一、會社名

住友金屬工業株式會社

一、所在地

大阪市此花區島屋町三十七番地

大日本帝國政府

一、申請ノ事由

前記工場財團ハ住友金屬工業株式會社ヲ共同受託會社トシテ數回ニ分チ發行スベキ住友金屬工業株式會社第壹回物上擔保附社債總額六千五百萬圓ノ擔保トシテ昭和拾六年參月五日抵當權設定ノ登記ヲ相受ケ、昭和拾六年參月貳拾五日其ノ第壹回發行分ハ號社債貳千萬圓、同年五月貳拾九日其ノ第貳回發行分ハ號社債貳千萬圓ニ付夫々附記登記ヲ相受ケタルニ付テハ右社債ノ受託會社(抵

一、申請ノ目的

工場財團登記簿謄本交付許可ノ許可

一、申請人

大阪市東區北濱五丁目貳拾貳番地

株式會社住友銀行

一、申請ノ目的

末尾記載大阪區裁判所江戸堀出張所登記第八拾號工場財團登記簿謄本(但工場財團目錄ヲ除ク)ノ交付ノ許可

一、申請ノ事由

申

大日本帝國政府

右軍用資源秘密保護法施行令第拾參條ノ適用ニ關スル件第貳條ニ依ル御許可相願度此段及申請候也

（但工場財團目錄ヲ除ク）ヲ備置ク必要アルニヨル當欄者）タル當行ニ於テ擔保ノ管理上前記工場財團登記簿謄本

昭和十六年七月參日

大阪市東區北濱五丁目貳拾貳番地

株式會社　住友銀行

代表取締役　岡橋　林

司法大臣　柳川平助殿

大日本帝國政府

一、工場財團ノ表示

一、工場ノ名稱及位置

大阪市此花區島屋町五拾六番地ノ壹

住友金屬工業株式會社伸銅所工場

大阪市此花區島屋町貳百四拾九番地

住友金屬工業株式會社製鋼所工場

大阪市此花區島屋町五拾六番地ノ壹

住友金屬工業株式會社プロペラ製造所工場

大阪市此花區島屋町參拾七番地

一、營業ノ種類

壹、銅亞鉛アルミニウム等非鐵金屬及其合金ノ鑄塊板管棒條鍛壓品鑄物航空機用プロペラ等ノ製造販賣並ニ之ニ關聯スル一切ノ業務

大日本帝國政府

貳、鑄鋼品鑄鐵品鍛鋼品壓延鋼品鋼塊鋼片諸機械器具ノ製造販賣並ニ之ニ關聯スル一切ノ業務

參、鋼管瓦斯管氣蓄器壓縮空氣及瓦斯容器棒鋼形鋼特殊鋼板等ノ製造販賣並ニ之ニ關聯スル一切ノ業務

四、前參號ノ製品ニ關スル各種加工品及附屬品ノ製造販賣並ニ之ニ關聯スル一切ノ業務

五、前各號ト同種類又ハ之ニ關聯スル事業ニ對スル投資

機密文書配付票（甲）

標記	件名	
軍資秘	軍用資源秘密ニ係ル工場財団登記簿謄本交付許可申請ニ関ス件（住友銀行申請）	

文書番號	連番號	備考
民事局秘第六六號	自　號 至　號 部數　部	

右貴廳宛配付致候條御査收ノ上領收證御送付有之度候

昭和十六年六月十四日

陸軍省副官

殿

司法大臣官房秘書課長

第七〇號

保存期限	三年	決裁指定	局長委任	決行指定	

政務次官 參與官	回付 決裁 前後	連帶課名	決行(決裁)後回覽課名
受領番號	壹第三七〇五號	起元廳(課)名	鐵道省
件名	軍用資源秘密保護法ノ撮影ニ關スル件		

拾年保

陸軍

大臣	委		
政務次官	次官	主務局長	付
參與官	高級副官	主務課長	
書記官	主務副官 官房御用掛 主計	主務課員	
審案筆記者			

主務局課			大臣官房	
番號	受領	提出	受領	結了
防衛甲第三八二號	昭和十六年七月十七日	昭和十六年七月二十二日	昭和 年 月 日	昭和 年 七月廿五日

連帶	決行(決裁)後回覽
局長	局長
課長	課長

（陸密）

七月十六日附鐵軍祕第二〇二號ヲ以テ協議ニ係ル首題ノ件ニ付大臣ヨリ鐵道大臣ヘ回答方ニ於テハ異條件ニテ許可相成差支無之此段及回答候

陸密第二一〇三號　昭和拾六年七月廿參日

鐵軍秘第二〇二號

昭和十六年七月十六日

鐵道大臣　小川鄉太郎

陸軍大臣　東條英機殿

海軍大臣　及川古志郎殿

（連名各通）

軍用資源秘密保護法ノ撮影ニ關シ別紙願出有之候處左記條件ヲ附スルニ於テハ支障無キモノト被認候條許可ノコトト致度此段及協議候

記

許可條件

一、努メテ構内施設物ヲ撮影セザルコト

陸軍省 昭和 16.7.17 前午 大臣官房

陸軍省 16.7.17 665 防衛課

二、撮影ノ成果物ハ其ノ公開以前ニ於テ東京鐵道局長ノ檢閲ヲ經ルコト

前項ノ檢閲ヲ受ケタルモノハ其ノ公開ノ際「鐵道省檢閲濟」ト表示スルコト

三、右成果物ニシテ公開不適當ト認メラルルモノアルトキハ之ヲ沒收ス

撮影許可願

本籍　福岡市下警固町八三一

住所　東京市淀橋區百人町三丁目三三一

職業　朝日新聞東京本社

代表者　緒方竹虎

五十四歳

昭和十六年七月　四日

鐵道大臣

小川鄕太郎　殿

左記ノ通撮影致度ニ付許可相成度候也

一、目的　當社發行ノ新聞紙上ニ掲載ノタメ

朝日新聞東京本社印

二、工場事業場其他ノ設備ノ所在地及名稱

川崎市小倉　新鶴見操車場、大宮市大宮驛、横須賀市逸見横須賀驛、横須賀市長浦田浦驛、平塚市新宿平塚驛、

三、區　域　新鶴見操車場、大宮驛、横須賀驛、田浦驛、平塚驛構内

四、期　間　自昭和十六年七月十五日
至昭和十七年七月十四日

五、方　法　撮　影

六、使用器具類ノ名稱

ニユークラツプ、イコンダシツクス、セミイコンター、オートミノルタ

七、作業者ノ住所氏名及年齢

横須賀市大瀧町五八　南　畝　義　生　卅八歳

〃　土　橋　治　重　卅三歳

川崎市宮前町二一	永久保　照男	卅九歳		
〃	長谷川　清	廿五歳		
平塚市新宿一五三四	藤原　幸一	四十六歳		
大宮市土手宿五〇九	先崎　武安	四十九歳		

八、作業ノ場所　東京市麹町區有樂町二ノ三　朝日新聞東京本社内

九、成果物ノ員數及其ノ用途

許可期間中ニ撮影見込ノ豫定枚數約三百枚ヲ當社發行ノ新聞紙上ニ掲載

七、其他參考トナルベキ事項

ナシ

撮影許可願

本籍　東京市芝區三田四國町二番地一號
住所　東京市京橋區銀座西三丁目一番地
職業　讀賣新聞社々長
氏名　正力松太郎　印　年齢五十七才

左記ノ通リ撮影致度候ニ付御許可相成度此段及御願候也

昭和十六年六月廿七日

鐵道大臣　小川鄕太郎殿

一字刻ル

記

一、目的　讀賣新聞ニ掲載ノタメ

二、工場、事業場、其他設備ノ所在地及名稱

神奈川縣横須賀市逸見町　横須賀驛

三、區域　横須賀驛構内

四、期間　自昭和十六年七月一日
至昭和十七年六月卅日

五、方法　撮影

六、使用器具類ノ名稱

普通寫眞器　ライカ、コンタツクス、パルモス

七、作業者ノ住所、氏名、年齢

神奈川縣横濱市中區本町五ノ四九

讀賣新聞横濱支局内

牧内福一　三十五才

神奈川縣横濱市神奈川區六角橋町六三五

坂井次雄　三十才

八作業ノ場所

神奈川縣川崎市宮本町四八

宮澤安二　三十才

神奈川縣平塚市新宿一、一八二

名倉信光　三十三才

神奈川縣横須賀市山王町六八

櫻井秋郎　三十九才

神奈川縣横須賀市日ノ出町二ノ二五　今井春雄方

山口貞雄　三十六才

九成果物ノ員數及ソノ用途

許可期間内撮影見込豫定概數普通寫眞六百枚ヲ讀賣新聞社發行

東京市京橋區銀座西三ノ一

讀賣新聞社

ノ新聞並ニ印刷物ニ掲載ス

ル其他參考トナルヘキ事項

ナシ

以

上

保存期限	三年	決裁指定	局長委任	決行指定

第七一

政務次官參與官	回付	決裁前後	連帶課名	決行(決裁)後回覽課名
受領番號	壹第三七九三號	起元廳(課)名	鐵道省	

件名

軍用資源秘密保護法ノ測量ニ關スル件

大臣	委	政務次官	參與官	書記官	審案筆記者
次官	委	主務局長 代	高級副官	主務副官 官房御用掛主計	主務課員
主務局長	代	主務課長			

主務局課	番號	受領	提出	大臣官房 受領	結了
	防衛甲第三八一號	昭和十二年七月二十一日	昭和十二年七月二十二日	昭和 年	昭和 年

七月廿二日

連帶	局長	課長	決行(決裁)後回覽	局長	課長
軍	局長	課長	大臣ノ回答		

拾年保

陸軍

（陸密）

大臣ヨリ鐵道大臣ヘ回答

七月十九日附鐵軍祕第二一五號ヲ以テ協議ニ係ル首題ノ件當方ニ於テハ前條件ニテ許可相成差支無之此段及回答候

陸密第二二〇九號　昭和拾六年七月廿參日

鐵軍秘第二一五號
昭和十六年七月十九日

陸軍大臣　東條英機殿
海軍大臣　及川古志郎殿

鐵道大臣　村田省藏

（連名各通）

軍用資源秘密保護法ノ測量ニ關シ別紙願出有之候處同行爲ハ當省宇野驛水路聯絡設備改良工事施行上已ムヲ得ザルモノト被認候條許可ノコトト致度此段及協議候

陸軍省 昭和 16.7.20 前午 大臣官房
陸軍省 16.7.21 670 防衛課

測量許可願

本籍　岡山市西田町拾九番地

住所　岡山市西田町拾九番地

土木建築請負業　楠見忠三郎

六十八歳

昭和拾六年六月貳拾六日

鐵道大臣　小川郷太郎殿

左記ノ通リ測量致度ニ付許可相成度候

左記

一目的　鐵道省岡山工事事務所管

宇野驛水運貨物積卸場移設其他工事施行ノ爲メ

二工場事業場其他設備　岡山縣玉野市　鐵道省宇野驛構内

ノ所在地及名稱

三區域　鐵道省宇野驛構内

四期間　自昭和十六年六月二十七日
　　至昭和十七年六月二十五日

五方法　平面竝縱斷測量及建物測量

六使用器具類ノ名稱　トランシット及レベル

七作業者ノ住所氏名及年齡　岡山縣玉野市田井　七三八二

光岡壽志（三十四歳）

北川千一（三十四歳）

岡田力一（四十八歳）

八作業ノ場所　玉野市　鐵道省宇野驛構内工事施行區域

九成果物ノ員數及其ノ用途ナシ

一〇其他參考トナルベキ事項ナシ

第七二号

保存期限 十年

決裁指定 次官委任

決行指定 原

大臣官房		主務局課		
結了	受領	提出	受領	番號
昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	昭和 十六年 七月廿 貳日	昭和 年 月 日	兵備第三四五號

七月廿五日

決行(決裁)後回覧	連帶
局長	局長 人
課長	課長 軍

大臣 委

主務局長	次官	政務次官
主務課長	高級副官	參與官
主務課員	主務副官 官房御用掛 主計	書記官
審案筆記者	松崎	

政務次官 參與官 回付 決裁 前後 連帶課名 補任 軍事 軍務 工政

決行(決裁)後回覧課名

拾年保

受領番號 三三第三八二六號

件名 國民徴用令ニ依リ徴用セラレタル者ノ徴用解除ニ関スル特例ニ関スル件

起元廳(課)名 厚生省

陸軍省 16.7.18 軍事課

次官ヨリ厚生次官宛回答案

陸密

七月十五日附厚生省発職第一一二號

二依ル首題ノ件異存無之

陸密第二三二一四號　昭和拾六年七月廿[illegible]

陸軍

極秘

厚生省發職第一一二號

陸軍省受領 壹第三八二六號

昭和十六年七月十五日

厚生次官

陸軍次官殿

大日本帝國政府

國民徴用令ニ依リ徴用セラレタル者ノ解除ニ關スル件

國民徴用令第十四條第一項ノ規定ニ依ル徴用ノ解除ニ關シテハ爾今被徴用者ガ左記ニ該當スルニ至リタルニ因リ徴用ノ解除ヲ必要トスル場合ニ於テハ被徴用者ヲ使用スル官衙ノ長ヨリ被徴用者ノ就業地（内地ニ限ルモノトス）ヲ管轄スル地方長官ニ對シ便宜徴用解除ノ請求ヲ爲サシムルコトトシ右請求アリタルトキハ就業地ノ地方長官限リニ於テ徴用解除命令ヲ通達スルコト致度及協議候

追テ徴用解除請求調書ハ別紙様式ニ依ルコトト致度

大臣委任スルコトトシ

国民徴用令第十四條第一項

「被徴用者ヲ使用スル官衙ノ所管大臣又ハ管理工場ノ事業主 被徴用者ガ疾病其ノ他ノ事由ニ因リ總動員業務ニ従事スルニ適セズト認ムルトキ又ハ其ノ者ヲシテ總動員業務ニ従事セシムルノ必要ナキニ至リタルトキハ厚生大臣ニ徴用ノ解除ヲ請求又ハ申請スベシ」

大日本帝國政府

別紙様式

徴用解除調書

（總動員業務ヲ行フ官衙）

記

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

徴用令書發付者			
同上發符年月日及番號		昭和　年　月　日　號	
徴用ノ期間	自	昭和　年　月　日	
	至	昭和　年　月　日	
從事スル總動員業務			
從事スル職業			
從事スル場所名稱			
從事スル場所所在地			
解除スベキ期日		昭和　年　月　日	
解除スベキ事由			
被徴用者氏名及生年月日			

第七三號

通五普通合第二〇八二號

昭和十六年五月三十一日

陸軍次官殿

外務次官

別紙添附

米國ノ Ship warrant 發給ヲ規定スル法律案ニ關スル件

本件ニ關シ今般在米野村大使ヨリ別紙寫ノ通通報アリタルニ付右茲ニ送付ス

本信送付先　陸軍、海軍、遞信、大藏、商工各次官

本信寫送付先　日本郵船、大阪商船、國際汽船、川崎汽船、山下汽船各株式會社

外務省

在米野村大使發松岡外務大臣宛電報寫　五月二十八日着

要旨左ノ通リノ「國防上商船ノ運送ニ優先順位ヲ規定スル法律案」ヲ下院ヲ通過シ上院ニ於テ目下審議セラレ居ル處本法ハ成立ノ可能性顯著ニシテ注意ヲ要ス

第一　國防上必要ト認ムル場合大統領ハ米國海事委員會ヲシテ「ウオーラント」（warrant）ヲ發給セシムルコトヲ得右「ウオーラント」ハ米國船舶及米國國民所有船舶ニ對シ發給セラレ外國船舶モ其ノ所有者若クハ傭船者ノ出願アル場合ハ之ニ對シ發給セラレ出願ノ手續ハ海事委員會之ヲ定ム

第二　本法ハ「ウオーラント」カ優先權及其ノ他ノ利益ヲ受クル爲當該船舶カ遵守スヘキ條件ヲ規定シ右條件トハ船舶ノ航路及乘客ノ種類其ノ他ヲ指ス

第三　右「ウオーラント」ヲ所持セサル船舶ニ比シ本法ニ依リ發給セ